

公益財団法人 世界人権問題研究センター



2026年度

人権大学講座

後援

京都府・京都市・京都商工会議所・京都府教育委員会・京都市教育委員会
京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞京都支局・読売新聞京都総局
産経新聞社京都総局・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都



公益財団法人世界人権問題研究センター シンボルマーク

全ての人間は、等しく人権を持つ…という気持ちを込めて、
人の姿をデザインし、地球に住むすべての人間が当センターの
対象であることを示しています。

講座日程

開催日時		種別	講座名	講師	
1	6月3日 (水)	13:30～ 13:40	開講式		
		13:40～ 14:00	授賞式	第3回安藤仁介賞授賞式	
		14:00～ 16:30	シンポジウム	子どもの権利をどう社会に根づかせるか	山野 則子 西岡加名恵 呉 永鎬 仲田 英成
2	6月26日 (金)	14:00～ 15:40	講義	豊臣秀長死後の奈良でおこった金をめぐる事件 —ならかし、奈良借—	河内 将芳
3	7月23日 (木)	14:00～ 15:40	講義	婚姻平等と人権 —同性カップルが「家族」となる権利をめぐる—	堀江 有里
4	8月5日 (水)	14:00～ 15:40	講義	インターネット誹謗中傷対策の最前線	増田 拓也
5	9月9日 (水)	14:00～ 15:40	講義	子どもの人権から考える —「支援が届かない子ども」を生まない社会と学校—	山野 則子
6	10月7日 (水)	14:00～ 15:40	講義	近世・近代の俗聖と地域社会—京都空也堂と空也聖—	菅根 幸裕
7	10月16日 (金)	14:00～ 15:40	ワークショップ	〈正しさ〉を吟味する	渡辺 毅
8	11月25日 (水)	14:00～ 15:40	講義	ジブリで考える人権—崇仁の地からの発信—	坂田 良久
9	12月4日 (金)	13:30～ 16:00	フィールドワーク	千本のまち 人とその歩み	ツラッティ 千本
10	12月16日 (水)	14:00～ 15:40	講義	人権の意義を問い直す—現代哲学から考える私たちの社会—	戸澤 幸作
11	1月18日 (月)	14:00～ 15:40	講義	日本におけるビジネスと人権 —国連「ビジネスと人権」作業部会の訪日調査報告を手がかりに—	三輪 敦子
12	2月5日 (金)	14:00～ 15:40	講義	ハンセン病強制隔離政策と優生手術	坂元 茂樹
		15:40～ 16:00	修了式		

■会場

- シンポジウム・講義・ワークショップ：世人研・多目的スペース（京都市下京区下之町57-1）
- フィールドワーク：ツラッティ千本（京都市北区紫野西舟岡町2「ふれあい共生館」内）

講師プロフィール等

山野 則子 (やまの のりこ)

研究センター研究員
大阪公立大学 名誉教授/特任教授
主要業績:『学校プラットフォーム—教育・福祉、そして地域の協働で子どもの貧困に立ち向かう』(2018年11月、有斐閣) 山野則子『エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク』(2015年2月、明石書店)

西岡 加名恵 (にしおか かなえ)

京都大学大学院教育学研究科教授
主要業績:大久保 真紀、西岡 加名恵 他『『生きる』教育』で変わる未来:学校を子どもたちの「心の安全基地」に』(2025年3月、日本標準)、西澤 哲、西岡 加名恵(監修)他『『生きる』教育』(2022年10月、日本標準)

呉 永鎬 (お よんほ)

研究センター研究員
鳥取大学地域学部准教授
主要業績:『朝鮮学校の教育史』(明石書店、2019年)、『公立学校の外国籍教員』(共著、明石書店、2021年)、『マイノリティ支援の葛藤』(編著、明石書店、2022年)

仲田 英成 (なかだ ひでなり)

元 豊田市立高橋中学校 校長
西三河福祉相談センター 教育職員
主要業績:『新学習指導要領を見通した岡崎附属小の社会科・生活科の授業』酒井宏明 編著(黎明書房)2011年

河内 将芳 (かわうち まさよし)

研究センター研究員
奈良大学文学部史学科教授
主要業績:『図説 豊臣秀長』(戎光祥出版、2025年)

堀江 有里 (ほりえ ゆり)

研究センター研究員
清泉女子大学他非常勤講師
主要業績:『レズビアン・アイデンティティーズ』(洛北出版、2015年)、『クィア・スタディーズをひらく』第1~3巻(晃洋書房、2019~2023年、共編著)

増田 拓也 (ますだ たくや)

研究センター研究員、弁護士
主要業績:単著『基礎からわかるゲームビジネスの法律実務』(中央経済社)
共著『はじめての知財法務Q&A—基礎知識から契約・出願・侵害対応まで—』(民事法研究会)

菅根 幸裕 (すがね ゆきひろ)

千葉経済大学経済学部教授
主要業績:『近世近代の俗聖と地域社会』(2024年10月、慶友社) 『旅と宗教—くらしの中の庶民信仰—』(2026年2月、慶友社)

渡辺 毅 (わたなべ たけし)

穀雨企画室代表

坂田 良久 (さかた よしひさ)

研究センター研究員
人権エデュ.COM 代表、崇仁発信実行委員会 理事

ツラッティ千本

ツラッティ千本は、千本地区の歴史や、住民参加のまちづくり、「きたけん(部落問題研究北区集会)」の取組などを通して、同和問題をはじめ広く人権問題について学んでいただく展示施設として、1994年に開設。
2021年の、複合施設「ふれあい共生館」内への移転後、教育コーナーの新設や特別展の内容を盛り込むなど、展示内容のリニューアルを図っている。

戸澤 幸作 (とざわ こうさく)

京都市立芸術大学 芸術学部 講師
主要業績:「『信じる』という概念の彫琢——『食人の形而上学』から『シネマ』へ」(『哲学』三田哲学会、第151号、2023年)ほか

三輪 敦子 (みわ あつこ)

研究センター研究員
関西学院大学総合政策学部教授
(一財)アジア・太平洋人権情報センター所長
主要業績:「『権利』意識と親密圏の自由」岡野八代(編)『自由への問い7家族』岩波書店、2010年
「北京会議の今日的意義」国際女性の地位協会 『国際女性』No.34、2020年

坂元 茂樹 (さかもと しげき)

研究センター理事長・所長
神戸大学名誉教授
(公財)人権教育啓発推進センター理事長
主要業績:『条約法の理論と実際[第2版]』(東信堂、2024年) 『日本の海洋政策と海洋法[第3版]』(信山社、2023年) ほか

講義の概要

第1回 シンポジウム「子どもの権利をどう社会に根づかせるか」【共催：京都府・京都市】

子どもの貧困、虐待、不登校、教育格差といった課題は、個々の家庭や子どもの問題としてではなく、社会構造の中で生み出されている問題でもあります。こうした課題に対し、教育実践の現場では子どもの尊厳と「生きること」を中心に据えた教育の取り組みが進められています。また近年では、自治体・教育機関・研究機関等の連携によるデータの活用や制度設計を通じて、子どもの困難を早期に把握し支援につなげようとする新たな試みも広がりつつあります。

本シンポジウムでは、教育実践と社会政策、さらにデータに基づく支援の可能性という異なる視点を交差させながら、「子どもの権利」を理念から実装へと接続するための方策を探ります。

第2回 豊臣秀長死後の奈良でおこった金をめぐる事件—ならかし、奈良借—

豊臣秀長の居城は郡山城であり、そこでは城下町としての郡山が発展をみしました。いっぽう、大和国には、それ以前から京都とならび都市としての奈良が存在しました。その奈良でおこった貨幣としての金をめぐる事件を追っていきたいと思います。

第3回 婚姻平等と人権—同性カップルが「家族」となる権利をめぐって—

世界では多様な家族のあり方が可視化し、権利も付与されてきています。しかしながら、G7のうち、日本だけが法律上同性のカップルが婚姻することができない現状にあります。「婚姻の平等」を求めて2019年に始まった訴訟も多くはこの状態を違憲と判断しています。なぜ、日本では婚姻平等が進まないのか。そこにどのような問題が横たわっているのか。性的マイノリティの人権という観点から考えてみます。

第4回 インターネット誹謗中傷対策の最前線

2025年4月、インターネット上の情報空間における権利侵害等に対処するための法律である情報流通プラットフォーム対処法（旧プロバイダ責任制限法）が施行されました。

本講演では、弁護士として権利侵害等への対処の現場で活動する講師が、同法の施行から約1年が経過した現在の状況を踏まえて、インターネット上の情報空間をめぐる諸問題について概説します。

第5回 子どもの人権から考える—「支援が届かない子ども」を生まない社会と学校—

なぜ子どもの問題はあとを絶たないのでしょうか。本講演では、子どもの貧困や不登校などの背景にある、「支援が必要でありながら支援につながらない」現状を、子どもの人権・権利理念の視点から解説します。少しでもこの状況を改善するには、何が必要なのでしょうか。私たちにできること何でしょうか。子どもを「守られる存在」ではなく、自ら権利をもつ主体として捉えることの意味を確認しながら、子どもを一人も取りこぼさない社会のあり方を、参加者の皆さんと一緒に考えます。

第6回 近世・近代の俗聖と地域社会—京都空也堂と空也聖—

本報告は、近世から近代における定住する俗聖の実態を明らかにするものです。具体的には、空也堂配下の鉢屋・茶笥を紹介します。鉢屋・茶笥については、本山であった空也堂の史料と茶笥側の史料を付き合わせて考察しました。鉢屋・茶笥たちは、それぞれ定着した地域で葬祭等の一角を担い、また様々な生業を営みながら生き抜いてきました。そして、こうした俗聖の最大の問題は、身分・立場の向上でありました。定住という束縛の中で、それらがどのように展開したかを明らかにしていきます。

第7回 ワークショップ・〈正しさ〉を吟味する

昔から〈正しさ〉を振りかざす人はいたものですが、とりわけ昨今は、他者を攻撃したり侮蔑したりする己れの態度を正当化したいがために、〈正しさ〉をことさら主張する人が増えてきたようにも思われます。いったいこの〈正しさ〉は人それぞれの内部で、人権感覚と折り合いがついているのか、いないのか。今回のワークショップでは参加者の皆さんとともに、私たちの内なる〈正しさ〉を疑い、吟味してみたいと考えています。

第8回 ジブリで考える人権—崇仁の地からの発信—

崇仁で見いだされた最新の史料を基に、部落差別の歴史を通史化します。「部落差別解消推進法」の目的に謳われた「情報化の進展による状況の変化」を読み解きながら、崇仁発信実行委員会が実践してきた「誰もが一人の『人』として尊敬しあえる関係性の構築」を提案、令和の今「部落差別」をどう捉えるのか、アイデンティティの視点から考えます。

第9回 フィールドワーク・千本のまち 人とその歩み

京都市北区の千本地区では、1957年から住環境整備事業に取り組み、80年代半ばには20棟の改良住宅及び地区施設が整備されました。90年代以降、改良住宅の建替えを契機とした「住民参加」のまちづくりが展開され、2018年までに建替え・リニューアル(計9棟)が完了しました。

現在、除却工事が完了し、広大な事業用地が現れており、「京都市北区のセンターシティ」としてのまちづくりが今後の課題となっています。

当講座では、講義、展示ガイド、フィールドワーク(千本地区及び開キ町)を予定しています。

第10回 人権の意義を問い直す—現代哲学から考える私たちの社会—

「人権」は、「私たち」が「人として」生きるための基礎的な権利であり、この世界のあるべき姿を模索し続ける今日の哲学的な議論のなかでも重要な役割を果たしています。でも同時に、この概念を巡って生じる人びとの葛藤や分断をどう受け止めるべきなのか、に、いまだ明確な答えはないことも確かです。この講義では、いくつかの具体的な事例を取り上げつつ、現代哲学の知見を通して、皆さまとともに人権という概念の意義と課題を考えます。

第11回 日本におけるビジネスと人権—国連「ビジネスと人権」作業部会の訪日調査報告を手がかりに—

国連は、2011年に「ビジネスと人権」指導原則を採択し、ビジネスの世界における人権課題への対応と解決に努力してきました。2023年に国連「ビジネスと人権」作業部会がおこなった訪日調査の報告書をてがかりに、日本には「ビジネスと人権」に関するどんな課題があるのか、どのような対応を求められているのかをお話します。

第12回 ハンセン病強制隔離政策と優生手術

ハンセン病強制隔離政策を進めた医師光田健輔は、1915(大正4)年より30数年間、ハンセン病療養所でハンセン病患者への断種手術を当時の内務省や厚生省の暗黙の了解の下に法的根拠なく実施していました。1940(昭和15)年の国民優生法の成立以前に、入所者の結婚を条件として1,000件を超える断種手術が行なわれました。

1948(昭和23)年の優生保護法制定により、優生手術の対象として、身体障害者や精神障害者に加えて、ハンセン病患者への優生手術がはじめて合法化されました(第3条)。本講演では、この問題の背景にある優生思想の問題点について、皆さんと一緒に考えていきます。

申込方法

定員

シンポジウム 80名

フィールドワーク 40名

(先着順)

講義 50名

ワークショップ 40名

受講料

1回 1,000円 全講座一括の場合 10,000円

※全講座を一括でお申込みいただくと受講料が割引となります。
※当センターの賛助会員は無料で受講できます。

シンポジウムは
無料です

受講

手続き

シンポジウム

○ **5月29日(金)までに**インターネット・FAX・電話で、お名前とご連絡先等をお伝えいただきお申込みください。インターネット申込みはこちらから。➡



講義・ワークショップ・フィールドワーク

- 受講日前日11時までに「受講申込書」にて、郵送、FAXでお申込みください。
- 右のQRコードからインターネット申込みもできます。
- 受講料は、当日、会場でお支払いください。
- 受講料の銀行振込みを希望される場合は、センター事務局までお問合せください。



※原則として当日の申込みはできませんので、注意してください※

申込先

公益財団法人 世界人権問題研究センター 事務局

〒600-8206 京都市下京区下之町57番地1 京都市立芸術大学内A棟7階
TEL (075) 585-5897 / FAX (075) 585-5898

会場案内

第9回 (12月4日開催) ・フィールドワーク

ツラッティ千本

受付 午後1時～

京都市北区紫野西舟岡町2 「ふれあい共生館」内

・市バス204,205,206号系統他「千本北大路」下車



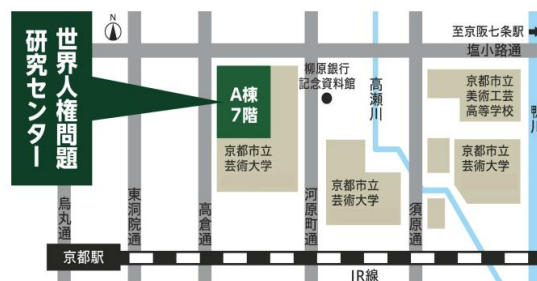
シンポジウム・講義・ワークショップ

受付:午後1時30分～

世界人権問題研究センター

京都市下京区下之町57-1 京都市立芸術大学内A棟7階

- ・JR、地下鉄、近鉄電車「京都駅」から 徒歩約6分
- ・市バス「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ
- ・京阪電車「七条駅」から 徒歩約8分



2026年度 人権大学講座 受講申込書

キ
リ
ト
リ
セ
ン

お名前 (ふりがな)			ご所属	
ご連絡先	〒 ー			
	TEL :	()	FAX :	()
受講料	<input type="checkbox"/> 全講座 ¥10,000		<input type="checkbox"/> ¥1,000 × () 回	
支払方法	<input type="checkbox"/> 当日支払い (毎回)		<input type="checkbox"/> 当日支払い (一括) <input type="checkbox"/> 銀行振込み	
講座日程 受講希望日に <input checked="" type="checkbox"/>	受講	開催日	講座名	
		6月3日(水)	人権問題シンポジウム 子どもの権利をどう社会に根づかせるか	
		6月26日(金)	豊臣秀長死後の奈良でおこった金をめぐる事件 ーならかし、奈良借ー	
		7月23日(木)	婚姻平等と人権 ー同性カップルが「家族」となる権利をめぐってー	
		8月5日(水)	インターネット誹謗中傷対策の最前線	
		9月9日(水)	子どもの人権から考える ー「支援が届かない子ども」を生まない社会と学校ー	
		10月7日(水)	近世・近代の俗聖と地域社会ー京都空也堂と空也聖ー	
		10月16日(金)	ワークショップ・〈正しさ〉を吟味する	
		11月25日(水)	ジブリで考える人権ー崇仁の地からの発信ー	
		12月4日(金)	フィールドワーク・千本のまち 人とその歩み	
		12月16日(水)	人権の意義を問い直すー現代哲学から考える私たちの社会ー	
		1月18日(月)	日本におけるビジネスと人権 ー国連「ビジネスと人権」作業部会の訪日調査報告を手がかりにー	
	2月5日(金)	ハンセン病強制隔離政策と優生手術		

シンポジウム・講座・ワークショップ

世界人権問題研究センター 受付:午後1時30分～

- 京都市下京区下之町57-1 京都市立芸術大学内 A棟7階
- ・JR、地下鉄、近鉄電車「京都駅」から 徒歩約6分
 - ・市バス「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ
 - ・京阪電車「七条駅」から 徒歩約8分



フィールドワーク

受付:午後1時～

ツラッティ千本

京都市北区紫野西舟岡町2 「ふれあい共生館」内

- ・市バス204,205,206号系統他「千本北大路」下車



